

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果では、平均正答率 60%で全国平均より2%高い。ほとんどの設問に関しても全国平均より上回っているが、唯一、「書くこと」に関しては、全国平均より0.9%低い。 ・全国学力学習状況の意識調査で、「読書は好きですか」という質問に対し、「好き」「どちらかといえば好き」という肯定的な回答が76.6%と全国平均61.6%を大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」機会を増やし、書いた文章をお互いに推敲し合い、批評する時間を確保する。 ・調査の結果、高得点だった生徒へは思考力を求める学習へと高め、低得点だった生徒へは、学習のポイントや授業の流れがより明確にわかるような手助けをし、個に合わせた学習をすすめる。 ・課題図書、昼読書など読書が好きになるような活動を引き続き進め、語彙を増やし、読解力の向上に役立てる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・試験や小テストの前に知識のみを習得しようとしている。その知識を活かし、自ら学ぼうとする意欲が少ない。 ・授業のワークシートや定期考査の結果から思考・判断・表現の観点に苦手意識が強い生徒が多い。その結果、深い学びにつながっていない。知識を得ることができるが、その知識を活用できる発想につなげることが難しいと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が関心をもち、自ら取り組むよう、教材や学習課題を見直す。学習課題を知識・技能の定着だけでなく、それぞれの関心や習熟度に合わせて学習課題や学習方法を選択できるように計画する。 ・学習課題の見直しを行う。習得した知識を活用した協働学習を設定し、活動では大型ホワイトボードやICT機器を活用し、より活発な話し合い活動を展開する。また、評価の場面ではルーブリック評価を活用し、適切なフィードバックを行っていく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果では、平均正答率 56%で東京都平均よりも高く、全国平均よりは7.7%高い数値を示した。分野別では「数と式」の平均正答率が48.7%で唯一50%に到達していない。全国平均よりは上回っているが、東京都平均よりも下回っている。 ・全国学力学習状況の意識調査で「数学の勉強は好きですか」という質問に対し、「好き」という肯定的な回答が35.1%で東京都平均よりも高く、全国平均25.5%より8.6%上回っている。そのほかの質問項目でも全国平均より4.5%から17.8%上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と式」の授業を強化し、式の意味を読み取ったり、数学的な表現を用いて説明する内容を積極的に取り入れたりする。 ・自分の考えを説明する機会を増やす。グループ学習やホワイトボードを活用して対話型の授業展開を中心に行う。 ・日常生活に関連する問題を取り入れ、論理的思考が日常の様々な場面で活用されていることを意識付けさせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査の結果より、平均正答が全国と同じ60%の値を示した。苦手な分野としては、物理分野（電気の単元）や生物分野（動物の分類の単元）であった。 ・定期考査や小テスト等の結果から、知識や技能の定着が不十分な側面があった。そのため、論理的な説明を言語化することが苦手な生徒が散見された。 ・実験などの実習には積極的な姿勢があるものの、結果が理論と繋がらず、考察の書き方等に不安や自信の無さが表れ、考えを書くことに苦手意識を感じている生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答数が少ない、物理分野（電気の単元）の生物分野（動物の分類の単元）の振り返りを重点的に実施する。 ・「e-ライブラリ」などの学習コンテンツや問題集なども利用しながら、ドリル的な要素を取り入れることや、授業の振り返り、単元の振り返りを確実に実施し、知識や技能の定着及び向上を図る。 ・論理的な説明や思考を促すワークシート等の工夫を行うとともに、自分の考えを他者に伝える活動の場面を意図的に増やしていき、表現力や考える力を身に付けさせる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽用語など、基礎的な楽典の知識を理解することが苦手である。 ・発問に対し積極的に答えるなど、音楽の授業に意欲的な生徒がいる。 ・鑑賞などでは落ち着いて授業に取り組んで、学習内容を理解しようと努力している。 ・歌唱においては、自信をもって歌える・歌えない生徒の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が主体的に考え、学習を深められるようなワークシートの工夫をする。（視聴覚・ICT機器の活用） ・表現の工夫や感受の過程など、生徒が考える過程において、個人、4人組、全体で共有し、まとめられるようにする。 ・表現活動（歌唱・器楽）が苦手な生徒への個人指導を行う。歌唱においては、一人一人が自信をもって声を出せるように、技術面だけの指導に偏らないよう、リラックスした状態での発声など、指導の工夫を図る。

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作において、自分なりに主題を生み出して発想を広げ、構想を練ることに苦手意識を感じている生徒がいる。 ・長期間の取り組みで完成させる作品制作では、制作意欲を維持し続けられない生徒がいる。 ・鑑賞では、作品について感じたことや思ったことをうまく文章で表現できない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを工夫したり、参考作品のバリエーションを増やしたりする。また、グループで相互に作品構想や意見を出し合ったりしながら、構想を更に練るなどの工夫をする。 ・作品制作の中で個々の能力に応じた短期目標や、授業ごとにスムーズステップを意識した達成目標を提示し、創作意欲を高める。 ・鑑賞の時間では、グループでの話し合い活動を行い、自分の思いや考えを言葉に表す力を伸ばしていく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の「ねらい」を通して自分の課題は見付けられるが、課題解決のために練習を工夫したり、話し合いを活発にさせたりすることが苦手な生徒が多い。 ・運動に対して苦手意識の高い生徒は、粘り強く取り組むことができずあきらめてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入や授業において「ねらい」をわかりやすく可視化し、段階的に取り組める教材やメニューを提示する。またグループで意見交換をしながら工夫の仕方を考えさせる。 ・グループ学習を多く取り入れ、仲間と共に楽しみながら技能を習得できるよう工夫する。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭は基礎的な知識や技術を習得するだけでなく、自ら考えたり、新たな課題等を見付けたりする力が求められる。そのような思考や課題発見等について、積極的に取り組めない生徒がいる。 ・作品製作において、完成させるための見通しをたてることに苦手意識のある生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの工夫や活用を行い、課題を見付ける。グループで意見を交換し、自分の考えをまとめることで、問題解決能力を身に付ける取組を意図的・計画的に行っていく。 ・製作前に授業の目標をたてさせたり、振り返る時間を設けたりすることで見通しをもたせる。
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT 活用が単発的で、生徒が英語を発話する機会が少ない。 ・教科書の内容は理解しているが、要約や意見を書くことが苦手な生徒が多く、文法やスペルのミスが多く見られる。 ・家庭でデジタル教科書を使用した学習をしている生徒が少なく、うまく活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT の勤務がない日もペア活動などで、生徒が英語を発話する機会を増やしていく。 ・短い文章での要約や、自分の意見を書くことから始め、文章を推敲し、ミスを減らしていく。 ・デジタル教科書を活用した課題を出し、家庭で使う習慣を身に付けさせていく。